



# まなびや

令和4年8月29日

8・9月号

## 東市ヶ尾



人とのかかわりの中で育まれる資質・能力 ―ヒガイチで大切に育成していきたいこと―

学校長 後明 好美

猛暑の中の休みが終わり、子どもたちが校舎に戻ってきました。比較的長い休みを経て、一人ひとりがリフレッシュし、また学校生活を楽しんだり頑張ったりしてくれるとよいと思います。

この休業では横浜市教育委員会から各学校に向けて、さまざまな発信がありました。その中で興味深かったものをここで御紹介します。

### 資質・能力育成を大切に

新しい学習指導要領が全面実施され、3年目となります。今回の改訂では、これまで内容重視の傾向にあったいわゆるコンテンツ・ベースから、どのような力が身に付くのかということも重視した資質・能力重視（コンピテンシー・ベース）への転換を行ったことは、これまでの報道からも御存じの方が多くいらっしゃると思います。子どもたちが将来活躍する社会と、学校との距離を縮めた教育活動を展開するために、子どもたち主体の授業の在り方を考えたり、総合的な学習の時間で地域の課題や素材を扱ったりと、本校でも授業改善を含むカリキュラム・マネジメントを進めているところです。

### 未来の社会で活躍する人を育成するために

一方で、社会に出て役立つ力と学校で身に付ける力との乖離も多く指摘されています。企業等ではいわゆる「レジリエンス（逆境をしなやかに生き延びる力、精神的回復力）」や「メタ認知」といった力をもつ人材を求めていると言われ、正解のない予測不能な未来社会を切り拓いていくために必要な力の育成という側面から、学校教育を捉え直す必要もあるといわれています。学校教育の中で、テストの得点など点数や数値で可視化できる「認知能力」だけではなく、いわゆる「非認知能力」（社会情動的コンピテンシー）の育成にも着目していく必要があるということなのだと思います。

確かに、社会の中で他者と課題解決するには、数値で可視化できる力だけではなく、協働する、見通しをもって粘り強く取り組む、失敗やうまく前進しないことを悲観しすぎずに冷静に捉えて調整する、自らの取組を的確に評価改善する、などの力が求められるのでしょうか。

※令和4年度横浜市教育課程研究委員会総則部会  
研究協議会資料より

### 非認知能力の可能性とヒガイチの学び

横浜市教育委員会では今後、非認知能力の中でも学校教育で充分育成可能と考えられる「好奇心」「メタ認知」「知的謙虚さ」「共感性」の4つに焦点を絞り、研究実践をしていくという発信がこの夏にありました。発信の中には、OECDの調査等から認知能力と非認知能力には相関があること、つまり非認知能力が高まると認知能力も高まり、その逆も同じくいえるということがわかってきているという内容もありました。加えて非認知能力は、子ども同士や子どもと地域や保護者の皆様、教師との関わり合いの中で豊かに育成されることから、人と人との関わり合いのよさや可能性を今一度見つめ直すことについても発信されました。

新しいことにわくわくする、疑問をもつ、振り返りや見直しを行う、相手の立場に立って考える、人の話をじっくり聞く、楽しさやうれしさ、時に痛みや悲しみを分かち合うなど、4つの非認知能力を発揮できる場は、ヒガイチの活動の中に多くあります。10月開催予定の運動会等の行事や体験や経験を重視した授業の中での子ども同士、子どもと教師の学び合いや関わり合いは、この非認知能力に支えられているのではないかと思います。

今後は子ども同士や子どもと教師、地域・保護者の皆様の関わり合いの中で育まれる非認知能力にも着目し、資質・能力を確実に育成できるよう、日々の授業や一つひとつの行事を大切に取り組んでいきたいと考えています。

今月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。